

校長講話 19

令和5年 9月25日（月） 23日（土）は秋分の日

おはようございます。

先週土曜、9月23日は、秋分の日で、今週は、昔から先祖の供養をする期間、お彼岸にあたります。

お彼岸には、お墓参りをしたり、「おはぎ」を食べたりしますが、そうしたよという人もいるのではないかでしょうか。

去年もクイズにしましたが、お彼岸になるころに咲き出す花の名前、覚えていましたか。

そう、「ヒガンバナ」です。

ほかの呼び方もありましたが、これも覚えましたか？ そう、「曼珠沙華 まんじゅしゃげ」です。

きのう、岩淵小のお父さんたち元気会が荒川の水辺でバーベキューを計画してたくさん的人が参加していましたが、その荒川の土手にも、たくさんのヒガンバナがさいていました。

家の近くや、岩淵小学校の校庭にも、また咲き始めたかな、と探してみてください。

このヒガンバナが咲き出すと、日が暮れるのが早くなります。

「秋の日は つるべ落とし」という言葉があります。

つるべというのは、井戸の中に綱につながった入れ物を下ろして水を汲むのですが、その桶、入れ物のことです。

井戸は深く、底はずいぶん下の方ですが、手を放すとするとつるべがすぐに底まで落ちていく様子が、秋の夕日がどんどん落ちていってすぐ見えなくなることと似ているという意味です。

言い換えると、秋の夕日は、落ち始めると、あっという間に暗くなる。という意味です。

日が暮れるのが早くなると、夜がどんどん長くなります。

遊んでいたり、出かけたりしているとき、まだ明るいから大丈夫と思っていても、暗くなり始めるとすぐに暗くなるので気をつけましょう。

夕焼けチャイムに頼らず、自分で時計を見るようにして、早めに、安全に家に帰るように気をつけてください。「秋の日は つるべ落とし」この機会にこのことわざ、覚えてください。 お話を終わります。

